タイ体験記

鈴木 大[1]・谷口真理[2]

[1] 005-8601　北海道札幌市南区南沢 5 条 1-1-1　東海大学生物学部生物学科
[2] 673-0012　兵庫県明石市和坂 1-15-34　株式会社自然回復

A report of experiences in Thailand.

By Dai SUZUKI[1] and Mari TANIGUCHI[2]

[1] Department of Biology, School of Biological Sciences, Tokai University, 1-1 Minamisawa 5 jo 1-chome, Minami, Sapporo, Hokkaido 005-8601, Japan
[2] Nature Recovery Co., Ltd., 1-15-34, Wasaka, Akashi, Hyogo 673-0012, Japan

2024 年 4 月から 2025 年 3 月にかけて，発表者の 1 人鈴木がタイ王国のマヒドン大学において研究活動に従事した．そこで，第 11 回淡水ガメ情報交換会にて，その研究活動期間において現地で確認した淡水性カメ類の紹介および人の利用状況について紹介した．本稿は，その会における講演要旨として作成したものである．

今回の約 1 年間の調査により，野外の池や河川，ならびに公園や寺院の池で様々な種類の淡水性カメ類を確認した．確認された主なカメ類は，在来種ではマレーニシクイガメ（*Malayemys macrocephala*），インドシナニシクイガメ（*M. subtrijuga*），コラートニシクイガメ（*M. khoratensis*），マレーハコガメ（*Cuora amboinensis*），ホオジロクロガメ（*Siebenrockiella crassicollis*），ヒジリガメ（*Heosemys annandalii*）であり，一方で外来種では北米原産のミシシッピアカミミガメ（*Trachemys scripta elegans*）も多く見つかった．また，各地の市場では多くのカメ類が販売されていた．それらにはペット目的のものもあるが，仏教の儀式の一つで，捕えられた生物を野外に放つことで徳を積む行為とされる放生会に用いるためのものとみられた．カメ類を販売していた店では他にも小型淡水魚や貝類等を販売しており，これらも放生会に用いるものとみられた．実際に発表者らは寺院の池にカメと魚を放している参拝客を確認しており，またいくつかの寺院では多くのカメ類が飼育されている池があった．このような池は人工的な環境であるため，放生会によって人の手により持ち込まれたものが多く含まれるのであろう．さらに，特に都市部の公園や寺院の池ではミシシッピアカミミガメが多く確認された．これらミシシッピアカミミガメが自然下へ分布を拡大する可能性があり，日本と同様にタイ王国でも外来種ミシシッピアカミミガメによる在来生物への影響が懸念された．

謝辞

本研究活動に際し，マヒドン大学理学部の Ekgachai Jeratthitikul 博士，Phakhawat Thaweepworadej 博士，Pakorn Komkam 氏，ならびに Animal Systematics and Molecular Ecology Laboratory の皆様，東海大学アセアンオフィスの富田紘央博士，株式会社自然回復の三根佳奈子氏にお世話になりました．ここに厚く御礼を申し上げます．本研究活動は 2024 年度東海大学特別研究期間において実施しました．また，タイ王国内での研究活動について，National Research Council of Thailand より許可を受けて実施しました（27/2567）．